

令和5年7月13日

西部農林水産振興センター益田事務所農業部

標 題	<p>国営農地開発地の「いま」を見える化</p> <p>～選んでもらえる農地農報～</p>
-----	---

(ダイジェスト)

地域計画の策定を契機に、国営農地開発地の耕作放棄地の見える化を益田市に働きかけ、該当農地の有効利用に向けた準備を進めています。今後、賃貸可能な農地をさらに絞り込み、新たな生産者の参入を働きかけていきます。

国営農地開発地では、露地野菜や施設野菜・果樹などが栽培され、益田市の農畜産物生産の核を形成しています。しかし、近年所有者の高齢化などが起因する耕作放棄地が増加しており、この有効利用が求められています。

その一方で、新規就農者などへ農地を紹介する際、農地の現状やその所有者の意向を一元化した資料がなく、実際には紹介できないというミスマッチが起っています。

そこで農業部は、国営農地開発地を益田市の地域計画策定の重点地区としての取り組みに誘導することにあわせ、まず農地情報の見える化に向けた作業を進めています。

具体的には、農地の現状を写真で記録し、検土杖で調査した土壌情報を一覧にしました(図1)。セイタカアワダチソウなど雑草が繁茂しているが排水が良い農地であることや、樹木が生え薄暗くなっているが作土層が深く作物を作りやすい土壌であることなど、農地ごとの特徴が一目で分かるようになっていきます。

今後、益田市が行う所有者の意向情報が追加されることで、農地の「いま」が明確になります。この資料を活用し、有機農業を視野に新たな生産者の参入を働きかけていきます。

また、水利施設の情報を加えるなど、益田市土地改良区との連携も進めていく予定です。

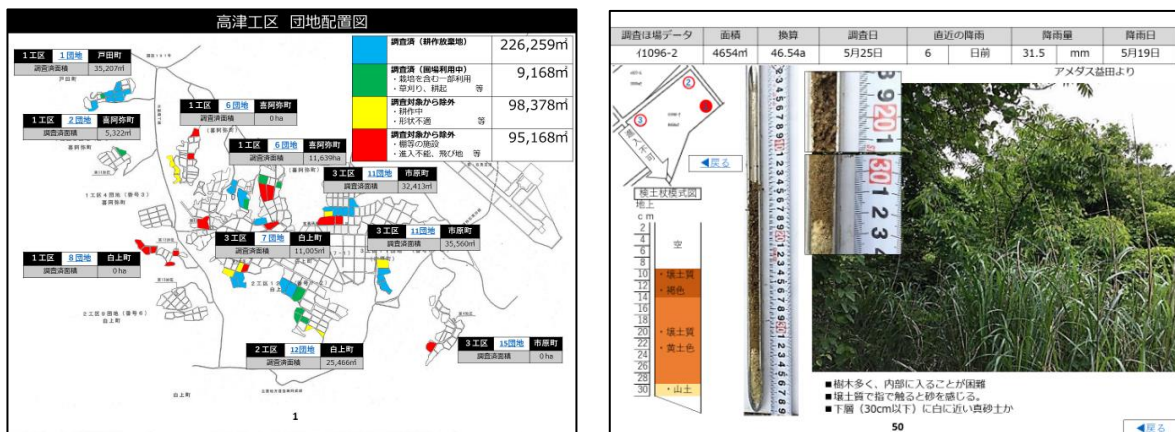


図1 国営農地開発地(高津工区)調査結果一覧資料(一部抜粋)